

知財業務×生成AI：リスクに基づいた「人間関与モード」活用ガイド

運用を定義する3つのモード




HITL (Human-in-the-loop)
人間による「事前承認」が必須のモード

専門家がAIの下書きをレビュー・修正し、承認しない限り外部開用や提出ができない、最も安全性の良い運用です。



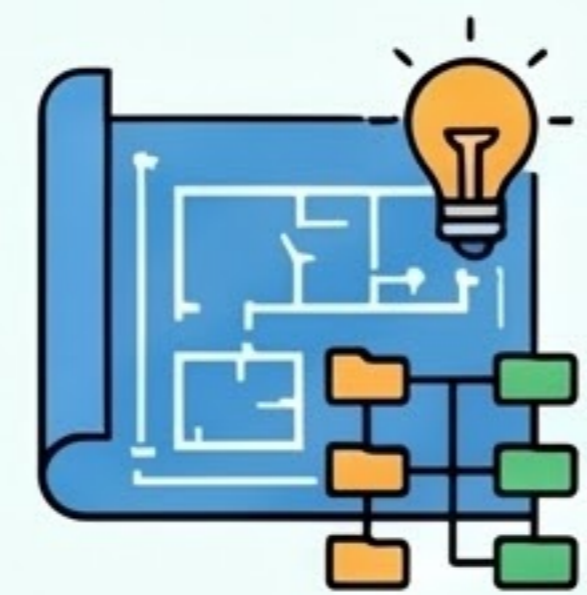
HOTL (Human-on-the-loop)
人間が「例外監督」を行うモード

AIが処理を実行し、人間は信頼性の低い結果や例外的なケース、サンプリングされたデータのみを監視・介入します。



HOOTL (Human-out-of-the-loop)
事前に視界を設定し「事後監査」を行うモード

人間は個別の判断には関与せず、事前に設定したルールの中でAIが自動実行し、事後のログ監査やキルスイッチによる停止権限を持ちます。



モード選択の5つの判断軸



業務プロセス別の推奨デフォルト



段階的導入ロードマップ

